

研究講習事業報告

学発番号： 学19-032★（日臨技推進事業）
事業名： 輸血検査講演会「安全な輸血療法を行うために」
日時： 令和元年11月2日（土） 14：00～17：00
場所： アークレイ株式会社 京都研究所
主 題1： 輸血業務のトラブル紹介
講 師1： 蔵敷 裕一 技師（京都桂病院）
主 題2： 多職種協働と理解を得るには？
講 師2： 吉田 正明 技師（滋賀病院）
主 題3： 輸血検査技師の臨床現場での役割
講 師3： 井手 大輔 技師（近畿大学病院）
参加数： 総数：55名（京臨技会員：33名）
報告者： 日下部 昌平（京都南病院）

以下、講演内容など

講演1では、自施設で起きた当直帯でのトラブル事例について問題点とその改善策を、詳しく説明して頂きました。特に、輸血検査は自動化が増えているため、機器トラブル時に用手法で対応できるように、輸血に関わる技師は日頃から手技を習得しておくことが重要であると改めて認識できました。

講演2では、実際の輸血の現場への院内ラウンドに関する内容について、輸血医療の現場に深く関わっている看護師に焦点をあて、見えてきた輸血業務の問題点に対し、看護教育の仕組みや看護業務にも踏み込んだ改善策など熱くお話して頂きました。また、技師会の研究班主催で輸血医療を良くすることを目標に、多職種参加型の研修会を数年前より継続して開催されており、その取り組み内容や苦労話についてもご講演いただきました。今後、多職種協働を考えていく上で、大変参考になると考えられました。

講演3では、輸血検査技師が輸血検査以外で臨床現場にどのようにして活躍するかについて自施設の取り組みを紹介して頂きました。具体的に、不規則抗体カードの説明・手術部現場や血液内科病棟への常駐で、各施設でどのようなことができるか考えるきっかけとなった貴重な講演内容でした。